快適な住まいを維持するために ~日常のお手入れ~

いつまでも美しい住まいを守り、安全で快適に暮らすためには、建物の正しい使用とお手入れは重要です。
間違った使用方法は、建物を傷つけ、事故を招く恐れがあります。また、キズは放置すると広がり、汚れを放置すると除去できなくなります。以下では、各種建築材料の取り扱い方法およびお手入れ方法と簡単な修理方法を説明しますが、手に負えないと思ったときは、管理会社に相談してください。

Point

1. 設備機器の取扱説明書は、必ず読んで、一ヶ所に保管してください。
2. 禁止事項は、守ってください。
3. 正しい使用方法は、建材や設備器具を長持ちさせます。
4. 被害や損傷を予防し、拡大を防ぐためには、日常点検が大切です。
5. わからないことは放置せず、専門家に相談してください。

【外 部】

バルコニー

床

取扱説明、禁止事項

- 許容荷重を超える重い物を載せる場合は、管理会社にご相談ください。
- 墜落の原因となるような足がかりとなる物を置かないでください。
- 下階へ物を落としたり、外へ水をこぼさないようにしてください。
- 避難ハッチや避難通路をふさぐような物を置かないでください。
- 下駄やゴム底の無いサンダルを使用すると、下階へ音が響くことがありますのでご注意ください。
- ハトなどの鳥の巣や蜂などの虫の巣を見つけたときは、管理会社に通知し、早めに取り除いてください。

☞「鳥害」について(P.40)

- 塗膜防水は、キズがつかないようにしてください。
- 床に防水措置がされていない場合は、水を流しての清掃は漏水の原因となることがあります。

日常のお手入れ

- こまめに掃き掃除してください。特に、ノンスリップシートは表面に凹凸があり、水や埃がたまりやすいため、放置すると取れなくなったり、シミになることがあります。
- クーラー排水ホースを溝まで伸ばし、直接、溝に流してください。(床が滑りやすくなり、汚れの原因になります。)
- 掃き掃除で取れない場合は、部分的にモップや雑巾等で水拭きしてください。

ドレン(排水口)

取扱説明、禁止事項

- 落ち葉やゴミがドレンにたまると雨水がたまることがあるので、定期的に点検、清掃してください。
- とい(樋)が詰まる原因となりますので、土やゴミを流さないでください。
また、洗剤を流すと下階で泡を吹くことがありますので、おやめください。
- 排水がスムーズに流れているかを定期的に確認してください。
- 台風前や大雨予報時には、ドレン周辺に落ち葉やゴミなど詰まりそうなものがないかどうかを確認してください。

☞「漏水」について(P.26)

日常のお手入れ

- 小さなブラシを使用し、ドレンの目皿にたまったゴミや周囲の泥を除去してください。
- ドレンの目皿(ふた)は、ドライバーで取り外して、ドレン内部の清掃を行うことができます。

手すり・物干し等

鉄部

取扱説明、禁止事項

- 手すりに布団やシーツ等をかけないでください。
- 塗装面を傷つけないようにしてください。
- 鉄部のキズは、サビを発生させます。放置せず早期の処置によりサビの進行を防ぐことができます。管理会社とご相談の上処置してください。 ☞「サビ」について（P.46）

日常のお手入れ

- 汚れは、乾拭きや中性洗剤を含ませた雑巾等で拭き掃除してください。

アルミ

取扱説明、禁止事項

- 汚れを放置すると取れなくなることがありますので、こまめに拭き掃除してください。
- アルミ建材は、腐食しにくい材料ですが、キズや汚れまたは塩分の付着により腐食することがあります。
- 可動式のアルミ物干し金物は、汚れが付着するとスムーズに作動しなくなります。週に1回程度清掃を行い、定期的に可動部分に潤滑剤を注油してください。

日常のお手入れ

- 汚れは、乾拭きや中性洗剤を含ませた雑巾等で拭き掃除してください。

外壁・天井

タイル

取扱説明、禁止事項

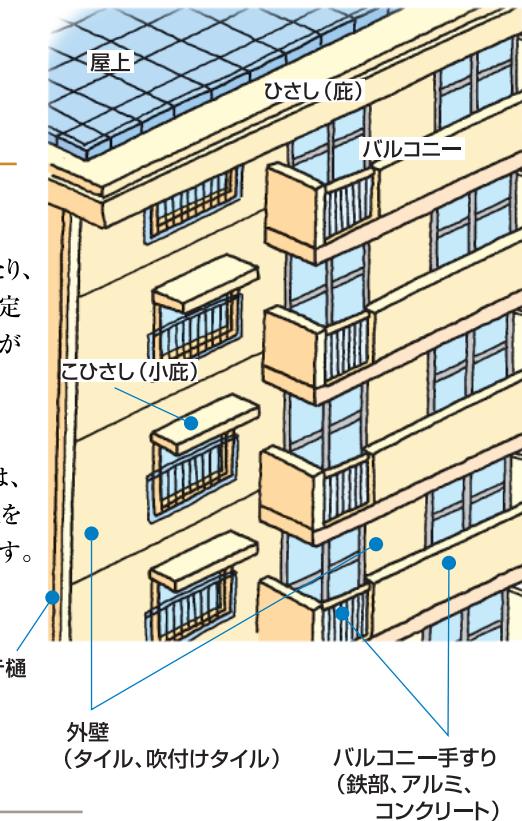
- コンクリートの経年の変化により、ひび割れから雨水が浸入したり、タイルの浮きが生じることがあります。タイルの状態については定期的な点検が必要です。タイルの点検は、専門家による調査が必要ですので、管理会社にご相談ください。

☞ 維持管理について（P.57）

- 手の届く範囲の壁や天井で、タイルに割れや漏水がある場合は、管理会社にご相談ください。不具合の発生箇所や修繕記録を残しておくと法定点検時や修繕工事の際の貴重な資料となります。

☞「タイルの剥離」について（P.44）

日常のお手入れ

- ほこりは、ほうき等で払い落とすか水拭きしてください。
- 汚れのひどいときは、市販のタイル用洗剤で落としてください。

吹付けタイル

取扱説明、禁止事項

- 外壁の吹付け仕上げ材は長年使用していると、外気や雨水等により塗膜が劣化し、美観や防水性能が低下します。吹付け仕上げ材の状態については定期的な点検が必要です。
点検は、専門家による調査が必要ですので、管理会社にご相談ください。

☞ 維持管理について（P.57）

- 外壁や天井のひび割れから漏水している場合は、早めに管理会社にご相談ください。
ひび割れの発生箇所や修繕の記録を残しておくと、法定点検時や修繕工事の際の貴重な資料となります。

☞「ひび割れ」について（P.30）

日常のお手入れ

- ほこりは、ほうき等で払い落としてください。
- 泥や油の汚れは水洗いや中性洗剤で洗い流してください。

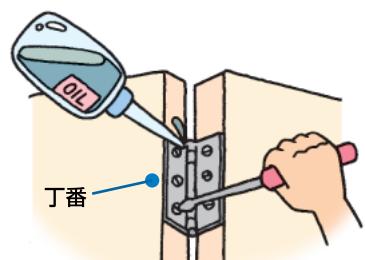
【内部】

玄関

玄関扉

玄関扉

取扱説明、禁止事項

- 丁番は弱い物なので、扉にぶら下がったり、物を挟まないようにしてください。
- 風通しを良くするために新たにドアストッパーを取り付けないでください。風であおられて、扉が変形することがあります。
- 丁番やハンドル部分は、定期的にビスの締め直しや潤滑剤などを注油してください。放置すると扉が閉まらなくなることがあります。

日常のお手入れ

- 汚れは、中性洗剤を含ませた雑巾などで拭いた後、乾拭きしてください。
- 海岸部や工場の近くでは、サビや油やススなどの汚れが付着することがあります。放っておくと取れなくなることがありますので、こまめにお掃除ください。
- ドアガード(用心鎖)は、経年劣化により動作が悪くなりますので動く部分に潤滑剤を注油してください。

簡単な修理方法

- 気密ゴム(枠の四周にある気密性を保つゴム)は、繰り返し使用していると、摩耗･変形･破損します。扉との隙間が大きくなった場合は交換してください。

鍵・錠

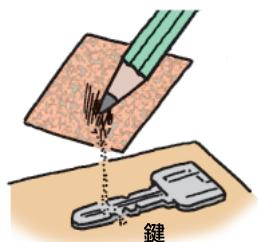
取扱説明、禁止事項

- 錠の内部には、油や潤滑剤を注油しないでください。ほこりが付着し作動不良の原因になります。
- 合鍵を作る場合は、鍵メーカーに依頼してください。
- 予備鍵を1本用意しておきましょう。
- 鍵は、少しの衝撃(手から床に落とす程度)で曲がることがあります。曲がった鍵は、錠内部を傷つけますので使用しないでください。

日常のお手入れ

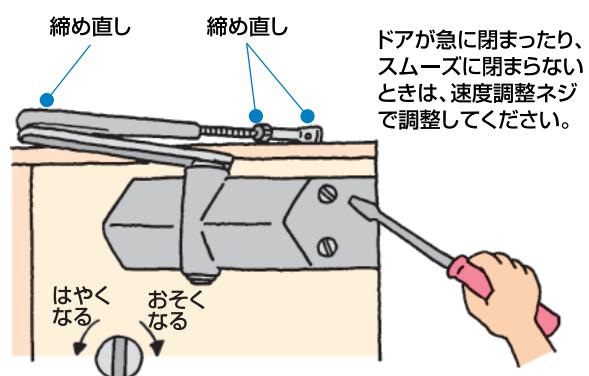
- 汚れやサビの付着した鍵は、掃除してから使用してください。
- 鍵のサビは、市販のステンレス用洗剤でサビを落としてください。

簡単な修理方法

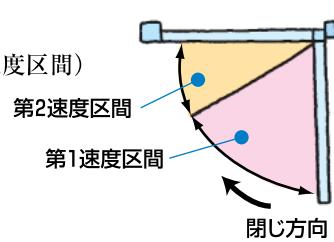
- 鍵の差込が固いときは、鍵をよく拭いて汚れを取り、鉛筆の粉を振りかけると動作が良くなります。

ドアクローザー

取扱説明、禁止事項

- ドアを自動的に閉めるドアクローザーは、日頃から潤滑剤などを注油してください。また、定期的にビスを締め直してください。緩んだまま使用するとビスが落下したり、ビス穴が広くなり戻せなくなります。
- ドアの閉まる速度が早すぎると、強風時に挟まれたりして危険です。ドライバーでドアクローザーを調整してください。

締め直し
締め直し
ドアが急に閉まったり、スムーズに閉まらないときは、速度調整ネジで調整してください。
はやくなる
おそくなる

簡単な修理方法

- ドアクローザーの調整

  上部のネジは、ドアが開かれた状態から閉まり始めるときの速度調節用。(第1速度区間)
  下部のネジは、ドアが閉まる直前の速度調節用。(第2速度区間)

床

大理石タイル

取扱説明、禁止事項

- 通常のマンションは、玄関床に防水をしていませんので、水洗いをしないでください。下階へ漏水する恐れがあります。
- 重い物や尖った物を落とすと割れることがあります。
- 雨の日は滑りやすいのでご注意ください。
- 泥や砂は、床を傷つけることがありますので、こまめに掃除してください。
- 雨の日は、玄関マットを玄関先においておくと、雨水や泥を玄関内に持ち込まないようにできます。

日常のお手入れ

- 固く絞った雑巾で拭きます。汚れのひどい場合は専用の洗剤を使ってください。
- 天然大理石は、酸に弱いので、酸を含まない洗剤を使用してください。

簡単な修理方法

- 欠けやキズは、市販の接着剤や補修剤で目立たなくすることができます。

室内

床

フローリング

取扱説明、禁止事項

- キャスター付きの家具や椅子はフローリングを傷めます。カーペット類かチェアマットを敷くか椅子の脚裏に緩衝材を貼りつけてご使用ください。
- 水をこぼしたときはすぐに拭き取ってください。放置すると変色や変形の原因となります。
- ワックス後のフローリングは滑りやすいのでご注意ください。
- 結露は、フローリングを吸湿させ、フローリングの浮きや波うちの原因となります。室内の結露対策をしてください。

☞「結露」について（P38）

- 床で飛び跳ねたり、物を落とすと衝撃音として下階に伝わり迷惑となりますので、騒音の防止にご配慮ください。

☞「音環境」について（P32）

日常のお手入れ

- 掃除は中性洗剤をつけたきれいな雑巾をよく絞って、乾拭きに近い方法で拭いてください。ワックス掛けは3ヶ月に1回程度行ってください。
- ワックス掛けができないフローリングを使用している場合は、フローリングの取扱説明書を確認いただくか、管理会社にご相談ください。

簡単な修理方法

- 深いキズや凹みは、同系色の市販の補修材で補修すると目立たなくなることがあります。
- 細かいキズはワックスで目立たなくなることがあります。

市販のフローリング床の補修材は、使用上の注意をよく読んでご使用ください。

床

畳

取扱説明、禁止事項

●畳は、湿気を嫌いますので水拭きは避け、部屋の通風を良くし、乾燥状態を保つことで畳を長持ちさせることができます。
●畳の上に重い物（ピアノ･テレビ台など）、脚（またはキャスター）のあるものを置く場合は、板（ベニヤ板など）で保護すれば跡はつきにくくなります。
●畳は通風を怠ると虫害につながります。
●畳の上にカーペット類などを敷く場合は、ときどきカーペット類などを上げ通風乾燥させてください。長い間放置するとダニが発生します。
●表面にいるダニには、電気掃除機をかける方法が一番有効です。ダニは夜行性なので、部屋を暗くして一時間程おいてから電気掃除機をかけると一層効果的です。

日常のお手入れ

●掃除機は、畳の目にそって強くこすらないようにかけてください。先端のブラシの部分がモーターで動くような掃除機は、畳を傷めるので注意が必要です。
●汚れの付着した場合は、お湯か中性洗剤で拭き掃除したあと、乾拭きして室内の通風を良くして素早く乾燥させてください。

簡単な修理方法

●畳の縁は薬品に弱く、脱色しやすいので薬品を使用しないで、水拭きしてください。
●畳の縁がこすれて音鳴がする場合は敷居や畳の縁の側面にロウを塗ると止まることがあります。

カーペット類

取扱説明、禁止事項

●ほこりなどがつきやすいので、こまめに掃除してください。
●ふだんから家全体の風通しを良くし、湿気がこもらないようにしてください。
●キャスター付きの椅子などを使用する場合は、カーペット類の毛（パイル）が痛みますので床マットなどを敷いてください。
●天気の良い日には窓をあけて、カーペット類をよく乾燥させておくと、ほこりがとれやすくなります。

日常のお手入れ

●電気掃除機は、カーペット類の毛並みと逆にかけます。毛をおこすようにし、パイルの根元の空気の通りをよくして、ゴミを吸いとります。上から力をいれて押さえつけると、空気の流れが悪くなり、かえってゴミがとれにくくなります。

簡単な修理方法

●しみ抜き方法
少量ずつ①〜③の繰り返し
①中性洗剤をスポンジにつけて軽くこする
②きれいな水を少量染み込ませたティッシュで拭く
③乾いた布で拭き取る
●油性の汚れは、少量のベンジンで拭きます。
●卵などの蛋白質の汚れにはお湯を使わないでください。
●パイルが飛び出したときは、飛び出したパイルをはさみで周囲と同じ高さに切り、切ったパイルの根元に瞬間接着剤を染み込ませておくと拡大を防ぐことができます。

クッションフロア

取扱説明、禁止事項

●熱に弱いので、熱い物を置かないでください。
●柔らかいので、重い物や固い物を引きずらないようにしてください。
●黒ゴムを使った椅子の脚や家具の塗り剤などに接触したことにより、黄色や濃い茶色に床が変色（転色）することがあります。そのような椅子の脚や家具には、転色しない材料を貼って直接接触させないようにしてください。

日常のお手入れ

●固く絞った雑巾で拭きます。
●汚れのひどい場合は、中性洗剤を含ませた雑巾などで拭いた後、念入りに乾拭きしてください。また洗剤分が残っていると、後日変色することがあります。

簡単な修理方法

●剥がれたりめくれたりした場合は、床シート用の接着剤で貼りますが、その際は以前の接着剤やゴミをよく落としてください。接着剤がはみ出した場合は、良く拭き取ってください。

壁・天井

ビニルクロス・布クロス

取扱説明、禁止事項

- ビニルクロス壁紙は、時間経過にともない、色があせたり、湿気や乾燥、日光の直射によりわずかな伸縮が発生します。
- 壁紙の種類によってはクロスの継目や下地の凸凹が目立ってくる場合があります。
- 結露は、壁紙の剥がれやカビの発生の原因になりますので、良く乾燥させるようにしてください。
- コンクリート住宅では、気密性が高いので、換気に心がけてください。換気を怠ると壁のクロスが剥がれたり、カビの発生の原因になります。
- 結露対策は、室内に湿度計をおいて、湿度が70%以上にならないようにしてください。

☞「結露」について（P38）

- 家具の裏面の通風が悪い場合、結露やカビが発生しますので、家具と壁は、10cm程度の隙間をあけてください。
- 換気スリーブまわりは、汚れが付きやすいので、特に汚れ具合に注意し、清掃してください。
- 石膏ボード壁で、下地のないところに、帽子掛けや額縁などをつり下げる場合は、専用のフックを使用し、重さに注意してください。

日常のお手入れ

- ビニルクロスの通常の掃除は、ハンドモップなどでほこりを払い落としてください。
- 汚れが目立ってきたら中性洗剤を含ませた雑巾などを固く絞り、拭き取ってください。
- 部分的な汚れは消しゴムで軽くこすります。こすりすぎるとクロス表面を傷つけますので軽くこすってください。
- ベンジンも効果的ですが、少量毎の使用にしてください。
- シンナーの使用は厳禁です。
- 布クロスは、こまめにハンドモップなどでほこりを払い落とすだけにしてください。

簡単な修理方法

- クロスが剥がれたり、めくれたりした場合は、ひどくならないうちに水性アクリル系接着材（例　ボンドコーク、ジョイントコークなどの壁紙補修剤）や壁紙用接着剤を使用し、押さえるように貼りつけてください。

ペンキ・吹付け

取扱説明、禁止事項

- 尖った物で引っ掻くとキズになりますので、ご注意ください。

日常のお手入れ

- 普段からハンドモップなどでほこりを落としてください。

簡単な修理方法

- 市販の塗料で部分塗装（タッチアップ塗装）してください。

化粧ボード

取扱説明、禁止事項

- 尖った物で引っ掻くとキズになりますので、ご注意ください。
- テープやシールなどを貼りつけると化粧ボードの表面材が剥がれることがありますので、テープやシールを貼らないでください。
- キズが大きい、汚れがひどい場合は、貼り替えが必要な場合があります。
- 湿気は大敵です。

日常のお手入れ

- 水拭きは絶対しないでください。
- 日常の清掃は、乾拭きしてください。
- 汚れが目立ってきたら中性洗剤などを含ませた雑巾などを固く絞り、拭き取ってください。

簡単な修理方法

- メラミン化粧合板などのカウンターや家具の表面にクレヨンなどが付着した場合は、アルコールや除光液で拭き取ってください。シンナーは厳禁です。

鋼製建具

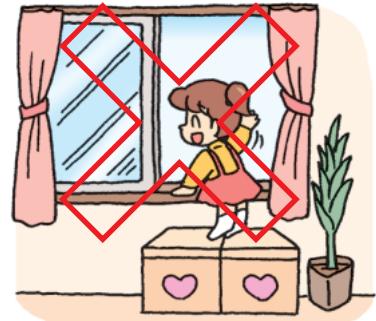
アルミサッシ

取扱説明、禁止事項

- アルミサッシの溝にゴミや石が入るとサッシを傷めることがありますので、溝内はゴムへラやブラシなどでこまめに掃除してください。
- ひさし（庇）の付いていない窓は、強風時や降雨時は閉めてください。
- 窓から物が落下しないようにご注意ください。
- ビスのゆるみがないか適時点検してください。
- 無理に開閉すると建具が変形したりキズがついたりします。扉や障子が外れていないか、引っかかりがないか、こすれていないかを確認してください。
- 墜落の原因となるような足がかりとなる物を窓の近くに置かないでください。

☞防犯・緊急時に対する備えと対応（P22）

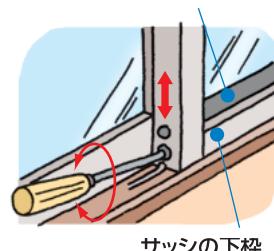
日常のお手入れ

- アルミサッシの汚れは、水に中性洗剤を混ぜ拭き取ってください、その後は乾拭きします。
- 海岸部は、台風時に塩分が付着することがあるので水洗いしてください。
- サッシには結露水の水抜き穴がありますので、目詰まりしないように掃除してください。
- 鳥の糞などが付着すると腐食の原因になります。早めに取り除いてください。

簡単な修理方法

- サッシの障子が重くなったときは、サッシ下溝と障子のコマ部分に潤滑剤をスプレーしてください。直らないときは、コマが破損している場合があるので管理会社にご相談ください。
- 引き違いサッシを閉めた状態で枠と障子に隙間がある場合は、障子の下の穴からドライバーで戸車の高さを調整することができます。

サッシの障子

サッシの下枠

網戸

取扱説明、禁止事項

- 網戸は、力をかけ過ぎると変形することがあるため、動かすときは両手で静かに動かすように心がけてください。
- 網戸は、外れやすいので、落下しないように注意してください。
- 網が破けたり、ゆるんだりしますので、網部分を手で押さないでください。
- 網戸は、ほこりがたまりやすいので日頃からハンドモップや掃除機でほこりを落としてください。

日常のお手入れ

- 掃除機で掃除する面の裏にダンボールや厚紙をあててあげるとよくホコリをとり、簡単です。
- 汚れがひどいときは、取り外して中性洗剤で洗ってください。

簡単な修理方法

- 網戸が破けたり、ゆるんだりした場合は、張り替えが必要です。張り替えに必要な工具や網は市販されています。
- 網戸の建付調整は、ドライバーで調整できるものがありますので、管理会社にご相談ください。

ガラス

取扱説明、禁止事項

- ガラスは軽い衝撃でも割れる恐れがありますので、以下の点に注意してください。
  - ・ガラスに寄りかからない、叩かない、蹴らない、ぶつからない。
  - ・ものを投げつけない。
  - ・ガラスの近くで子供を遊ばせない。
- ガラスの入っている窓や扉を必要以上に強く開閉しない。
- ガラスにポスターやシールを密着させたり、塗装すると太陽熱でガラスが割れることがありますのでおやめください。
- 結露したガラスは、結露水を入念に拭き取ってください。
- ガラスは風圧を考慮して厚みを決めています。取り替えの際は、同じ厚みの物と取り替えてください。
- 大きな面積のガラスは、許容値以下の小さいキズや気泡を含むことがあります。強度、外観上問題のない範囲とされていますので問題はありませんが、気になる場合は管理会社にご相談ください。
- 強化ガラスは、キズがつくと後日に割れてくることがあります。強化ガラスにキズが見つかった場合は管理会社にご相談ください。

日常のお手入れ

- まめに乾拭きしてください。ちょっとした汚れはぬるま湯で固く絞った布で拭き取ります。しつこい汚れはガラスクリーナーや薄い中性洗剤で拭き取り、最後に乾拭きしてください。乾拭きをしないとあとでクリーナーの成分が白く浮きでることがあります。
- 大きな台風時で、特に海岸部は塩分が付着することがあります。放置すると白くなり取れにくくなります。早めに水洗いしてください。

木製建具

開き扉

取扱説明、禁止事項

- 外部に人がいることを予想し、開閉はゆっくりと行ってください。
- テープやシールなどを貼りつけると表面の化粧材が剥がれることがありますので、テープやシールを貼らないでください。
- 扉を開け放した状態にしておくと、風で扉があおられ、扉や壁を傷つけることがあり、場合によっては扉が脱落したりガラスが割れたりすることもあります。扉を開け放した状態にする場合は必ずストッパーで扉を固定するようにしてください。

簡単な修理方法

- 扉が開きにくい場合は、丁番のネジがゆるんでいないか確認してください。
- 丁番自体が変形している場合は、交換が必要です。
- ドアのロックのかかりが悪いときは、枠側の受け座の調整で直すことができることがあります。

日常のお手入れ

- 掃除は、雑巾を水ですすぎ固く絞って拭き取るか、薄い中性洗剤で拭き取ります。その後は乾拭きしてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤や強い洗剤を使用しないでください。
- マジック・ペンなどが付着したときは、速やかに拭き取ってください。
- 額縁のビスや釘が抜けかかっていたら、早めにドライバーで締めてください。

片引き戸・引き違い戸

取扱説明、禁止事項

- 指を引き戸に挟んだり、扉と壁の間に引き込まれたりするのでご注意ください。
- 敷居にゴミが詰まると開閉が固くなったり、扉を傷つける原因となります。こまめに掃除してください。
- 夜間に勢い良く扉を閉めると、住戸内だけでなく、隣戸にも音が伝わることがあります。特に夜間の静かな時間帯は、開閉をゆっくり行うか、または緩衝材を貼りつけてください。

☞「音環境」について（P32）

簡単な修理方法

- 引き戸が重いときは、ロウワックスを少量溝にこするとなめらかになります。
- 片引き戸は中柱とそりの最も大きい部分にダンボール紙を2cm位の厚みにして、矯正し、通風をよくし、2～3日間そのままにしておくと直ってくることがあります。

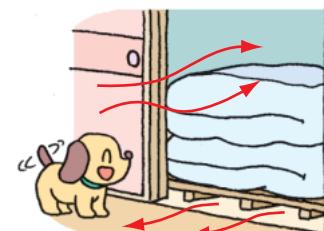
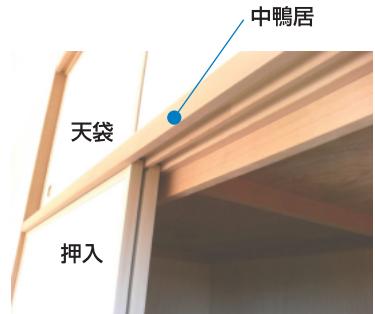
ふすま・障子

取扱説明、禁止事項

- 押入ふすまを閉め切った状態にすると、ふすまが反ることがありますので、適時換気してください。暖房器具をふすまや戸ふすまの近くで使用すると反ることがあります。
- 天袋のある押入の場合、収納物重量による天袋のたわみでふすまが開閉できなくなることがあるため、中鴨居は天袋と固定していません。
- 晴天時には押入のふすまを開放しましょう。
- 引き違いのふすまや障子を掃除などで取り外すときは、入れ間違いがないようにご注意ください。

☞「結露」について（P38）

日常のお手入れ

- 汚れが目立つときは、白木用の漂白剤を使って軽く拭いた後、お湯拭きで漂白剤が残らないようにし、さらに乾拭きで水分が残らないようにします。
- 押入は、できるだけ開けるようにして、風通しを良くしてください。床にスノコを敷き、布団などの収納物を壁から少し離すように納め、梅雨の時期などは、扇風機をかけて中の湿気を追い出してください。

簡単な修理方法

- 白木の枠または建具が、欠けたり、めくれたときは、木工用ボンドで貼り付けてください。
- 引き戸が反って開閉しづらくなったときは、扉を重ね合わせて、扉同士の隙間に新聞紙やダンボール紙を差し込んで数日放置してみてください。反りが矯正される場合があります。

木製建具

把手・ハンドル

取扱説明、禁止事項

- 経年にともない、油ぎれが発生し、作動不良を起こすことがありますので、定期的に潤滑剤の注油をしてください。
- レバーハンドルに鞄やハンガーを掛けないでください。レバーハンドルの軸が曲がり、作動不良の原因となります。
- レバーハンドルは、頻繁に手に触れるため、水や油がつきやすく、サビやメッキの剥がれが発生しやすくなりますので、日常的な清掃が必要です。
- 丁番のビスが緩んだまま使用すると、枠や扉を傷つけるので、ビスの締め直しをしてください。

日常のお手入れ

- こまめにレバーハンドル部分を柔らかい布で乾拭きして、付着したほこりや油などを拭き取ってください。
- 半年に1回程度は、レバーハンドルや丁番に潤滑剤を注油してください。

簡単な修理方法

- サビの発生やメッキの剥がれは、交換するしか方法がありません。日常の拭き掃除で長持ちしますので、こまめにお手入れしてください。

レバーハンドル

【住設機器】

厨房機器

ステンレスカウンター

取扱説明、禁止事項

- 固い物や尖った物などでこすると容易にキズがつくので、ご注意ください。
- 台所使用後は、付着した水を拭き取っておくと水垢などが付着しません。
- ステンレスの上にさびやすい物を放置すると、ステンレスにもサビが発生します。敷物を敷くか、さびやすい物を置き放しにしないようにしてください。

日常のお手入れ

- ふだんからこまめに水拭きしてください。汚れのひどい場合は中性洗剤を使用し拭き取ります。
- 汚れが取れない場合は市販のステンレス用洗剤で洗い落としてください。

簡単な修理方法

- サビが発生した場合は、市販のステンレス磨きやステンレス用サビ落としを使用し、軽く磨いてください。強くこするとキズがつくことがあります。
- 磨き粉は使用しないでください。

☞「サビ」について（P46）

人工大理石カウンター

取扱説明、禁止事項

- 熱い鍋やヤカンを直接置くと変色する場合があります。また、色素が移染しやすいため醤油などをこぼした場合はすぐに水洗いをしてください
- キッチンは、日常のお手入れで、清潔に美しく保つことができます。また、放置すると汚れが取れなくなってしまいます。

日常のお手入れ

- 水拭きしてください。汚れのひどい場合は中性洗剤を使用し拭き取ります。
- 汚れが取れない場合は、磨き粉で軽くこすって汚れを落とします。

簡単な修理方法

- 細かいキズや汚れが付着した場合は、目の細かいサンドペーパー（#400〜#1000）で軽くこすってください。

人工大理石カウンター

厨房機器

吊戸棚・食器棚

取扱説明、禁止事項

- ときどき扉を開けて換気してください。また、重量物を吊り戸棚に載せないようにしてください。
- 扉の開閉の際に、力を下向きにかけたり、開きすぎたりすると丁番を傷めることがあります。ゆっくりと開閉してください。
- シールやテープを貼ると、表面材が剥がれることがあります。

日常のお手入れ

- 年に1回程度、食器類を全部取り出して内部の掃除をしてください。

簡単な修理方法

- 頑固な汚れは、中性洗剤原液を含ませたペーパータオルを汚れた場所に貼りつけてしばらく置き、ペーパータオルを剥がした後、お湯で拭き取ります。

排水口

取扱説明、禁止事項

- 熱湯は、流さないでください。配管を傷める原因になります。

☞「漏水」について（P26）

- 生ゴミや廃油を流さないでください。ディスポーザーが設置されている場合は、取扱説明書を必ず読んでください。
- 流し、洗面室、風呂、洗濯パン、トイレの排水管を長期間使用しないと、トラップ内の封水が蒸発し、配管内部の臭いがあがってくることがあります。適度（2週間に1度）に水を流して封水がなくならないようにしてください。

☞「悪臭」について（P36）

☞設備機器の使用上の注意（P20）

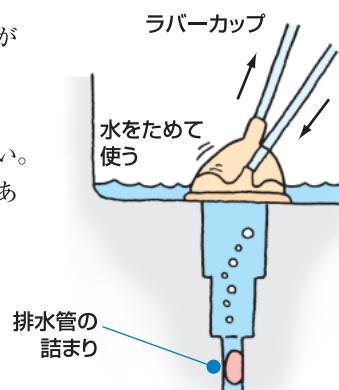
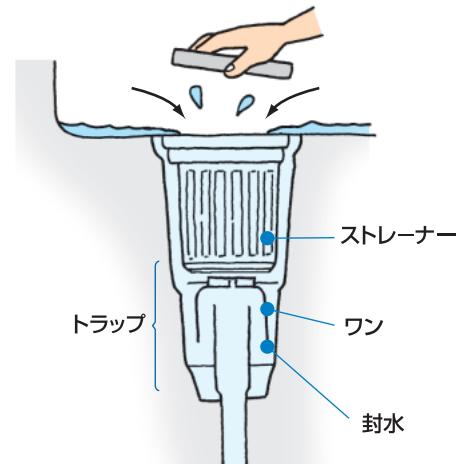
日常のお手入れ

- 排水口やストレーナーは、こまめに清掃してください。
- 清掃の際、市販の塩素系「ヌメリ」防止剤を使用すると、ステンレスにサビが発生することがありますので使用しないでください。

☞「サビ」について（P46）

- 月に1度は、流し台内部の給排水管を目視し、漏水の有無を確認してください。
- 「ワン」の固定がキチンとされていない場合、排水口から異音がすることがあります。トラップ清掃後は、ワンの固定を確認してください。

簡単な修理方法

- 水栓が固い、水栓を閉めても水が漏れる場合は、水栓のパッキンを交換してください。
- ゴミを取り除いても排水管の詰まりが直らないときは、ラバーカップを使用してください。

レンジフード

取扱説明、禁止事項

- レンジフードを使用する場合は、排気量に応じた給気が必要です。給気口や換気小窓を開けてください。
- レンジフードは汚れがつきやすく、放置すると能力が低下するばかりでなく、火災を招くことがあります。こまめに清掃してください。
- コンロ使用時は、必ずレンジフードを運転し、コンロを停止しても、レンジフードは10分程度停止させないでください。（ダクト内部の油煙や水分を完全に排出してください。）

日常のお手入れ

- 最低3ヶ月に1回はフィルターの清掃を行い、内部のファンも1年に1回程度、清掃してください。

浴室

床・壁・天井

取扱説明、禁止事項

- ユニットバスの取り扱いは、メーカーの取扱説明書を必ずお読みください。
- カビや結露などの悪影響をおよぼさないために、入浴後は、2時間程度換気扇を運転するか、窓を開けて浴室内の湿気を取り除いてください。（「壁の水滴が無くなるまで」が換気時間のめやすです。）

☞設備機器の使用上の注意（P20）

- ユニットバスの使用後は、壁や床、水栓器具などに付いた洗剤をシャワー水で水洗いしておくと、水垢などの汚れが付着しにくくなります。
- 照明器具のカバーを外したままで使用しないでください。（漏電のおそれがあります。）

日常のお手入れ

- ユニットバスの壁や床は、キズがつきやすいものがあるので、清掃は磨き粉やタワシは使用しないでください。スポンジに住宅用洗剤をつけて洗ってください。
- 換気扇はほこりが詰まりやすいので、定期的に清掃してください。（換気が悪いとカビが発生しやすくなります。）
- 排水口のふた（排水目皿）やトラップの内部に付着した毛髪、糸くずなどは、こまめに除去してください。

簡単な修理方法

- 壁やパッキン部および目地がカビなどで汚れた場合は、カビ取り剤などで殺菌し、十分水洗いしてください。その後は、浴室の換気に注意し、できるだけ乾燥させるようにしてください。
- 排水管が詰まった場合は、管理会社に連絡し、専門業者に依頼してください。

浴槽・その他

取扱説明、禁止事項

- タオル掛けや物干し竿にぶら下がらないようにしてください。
- 結露の原因となりますので風呂蓋をしてください。また、蓋の上に乗らないでください。
- 蛇口やシャワーからの熱湯にご注意ください。
- 浴槽に水を張ったままで放置しないでください。
（子供さんが転落する恐れがあります。）
- 浴槽に60℃以上の熱湯を注ぐと変色することがありますので、ご注意ください。

日常のお手入れ

- シール部分（ゴム状の弾力性のある材料）はこすらずに軽く拭き取る程度にしてください。

簡単な修理方法

- ユニットバスの取り扱いは、メーカーの取扱説明書を必ずお読みください。

トイレ

床

取扱説明、禁止事項

- 床はクッションフロアなどが使用されていますが、防水をしていないため、床の水洗いは絶対にしないでください。
- こまめに（できればトイレの使用後）に床を軽く拭いておくことで、床をきれいに保つ期間が長くなります。

日常のお手入れ

- クッションフロアシートなどは固く絞った雑巾で拭いてください。汚れのひどい場合は中性洗剤を含ませてください。

簡単な修理方法

- 剥がれたりめくれたりした場合は、床シート用の接着剤で貼りますが、その際は以前の接着剤やゴミをよく落としてください。接着剤がはみ出した場合は、良く拭き取ってください。

トイレ

壁・天井

取扱説明、禁止事項

- 室内は湿度が高く、結露しやすい状態になっています。換気を心がけてください。
- トイレの換気扇をできるだけ長時間運転すると、トイレ内の結露の防止につながります。

☞「結露」について（P38）

日常のお手入れ

- ビニルクロスの通常の掃除は、ハンドモップなどでほこりを払い落としてください。
- 汚れが目立ってきたら中性洗剤を含ませた雑巾などを固く絞り、拭き取ってください。

簡単な修理方法

- 補修は、ハガレが広がる前に下地の汚れ（ほこり･油分など）を取り去り、水性接着剤を塗り付け、十分圧着してください。剥がれてから時間のたったものや、劣化して固くなってしまったものは補修が困難になります。

便器・ロータンク

取扱説明、禁止事項

- トイレットペーパー以外は、絶対に流さないでください。
- 洗浄剤を使用の際は、注意書きをよくお読みください。
- ロータンク内に異物を入れないでください。
- ロータンク上部の蓋が正常に設置されているか確認してください。（漏水の原因になります）

☞設備機器の使用上の注意（P20）

- 使用時には、水の止まるのを確認する習慣をつけましょう。
- トイレの水が止まらないときまたは水が出ないときは、止水栓を閉め、ロータンクの上蓋をあけて、中の浮き玉の状態を確認してください。

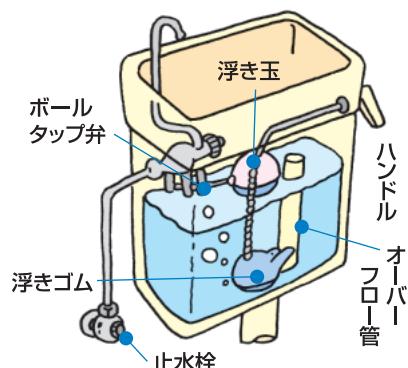
☞「漏水」について（P26）

ロータンクの構造

日常のお手入れ

- トイレの「キレイ」を保つには、汚れに気づいたらその場での掃除が一番です。
- 給水管や排水管は、結露しやすいので、こまめに結露水を拭き取ってください。
- 床にこぼれた水分は、すぐに拭き取るように心がけましょう。放っておくと黒いシミになります。

簡単な修理方法

- 便器が詰まったら止水栓で水を止め、排水口を全部塞ぐようにしてラバーカップを押しつけ、勢いよく手前に引いてください。
  ラバーカップの上ぐらいまで水をためてから始めてください。
- 異常があるときは、すぐに止水栓を閉め、管理会社および専門業者に連絡してください。

トイレ用ラバーカップは、穴を開けたポリ袋やビニール袋を便器にかぶせて作業しましょう

洗浄便座

取扱説明、禁止事項

- メーカーの取扱説明書を必ず読んでください。
- アースは、必ず取り付けてください。
- 洗浄ノズルの詰まりは、漏水の原因になります。定期的に確認し、ノズルの汚れを清掃してください。

日常のお手入れ

- なかなか落ちない汚れは、トイレ専用の中性洗剤をつけた布かスポンジで拭き取ってください。

簡単な修理方法

- 洗浄便座を便器から取り外して清掃する場合は、取扱説明書に従って行ってください。洗浄便座内の水が漏れることがあります。

洗面室・洗濯室

洗面室

取扱説明、禁止事項

- 換気にご注意ください。
- 化粧台のカウンターの上に乗らないでください。
- 曇り止めヒーターは、長時間つけたままにしないでください。故障の原因になります。
- 水がこぼれた場合は、すぐに拭き取ってください。（浴室マット、洗面マットをご使用ください。）
- 月に1回は、洗面化粧台内部の給排水管からの漏水の有無を確認してください。
- 陶器製の洗面ボウルに熱湯を流すと割れることがありますので、熱湯は流さないでください。

☞設備機器の使用上の注意（P20）

日常のお手入れ

- 化粧台や鏡に飛び散った水滴やこぼれた化粧品は、その場で拭き取るようにしてください。
- 水栓もこまめに乾拭きしておけば、水栓が鈍くくすんでしまうことを防ぐことができます。
- 排水口・オーバーフロー管に毛髪などがたまると、スムーズに排水できなくなります。ゴミはこまめに取り除きましょう。

簡単な修理方法

- 水栓や洗面ボウル近くにできるピンク色の汚れは、汚れの部分にティッシュペーパーを敷き、浴室用中性洗剤を吹付けパックします。20分ほどしたらティッシュペーパーを外し、水拭きで洗剤分を取り除いてください。
- しつこい汚れは、歯磨きペーストを使って落としてください。

洗濯室

取扱説明、禁止事項

- 乾燥機を使用する場合は、付近の換気扇を全て運転し、湿った空気がこもらないようにしてください。
- 全自動洗濯機は、自動的に水を止めるようになっていますが、使用しないときは蛇口を閉めてください。ホースが外れると漏水につながります。
- 排水ホースが外れたままで使用すると漏水事故につながります。洗濯機を使用する場合は、洗濯排水のホースが外れていないか毎回確認するようにしてください。

日常のお手入れ

- 洗濯パンの排水口の掃除、点検を定期的に行ってください。
- 換気扇はほこりが詰まりやすいので、定期的に清掃してください。

簡単な修理方法

- 臭いがする場合は、トラップ内の封水がなくなっていないか確認してください。

☞「悪臭」について（P36）

【その他】

階段（メゾネットタイプ）

床

取扱説明、禁止事項

- お子さまが転落する恐れがある場合は、階段の昇り口と降り口に防護柵を取り付けてください。
- 階段手すりのビスのゆるみに注意し、定期的に締め直してください。
- ワックス掛けは滑るので避けてください。
- 踏み面や階段付近にマットなどを敷かないでください。
- 階段の下に鏡やガラス製品などの割れやすい物を置かないでください。

日常のお手入れ

- 掃除は中性洗剤をつけたきれいな雑巾をよく絞って、乾拭きに近い方法で拭いてください。

カビのない健康住宅を目指そう

恐ろしい住まいのカビ

カビは、人にとって、有益な菌と有害な菌があります。しかし、住居内に発育する菌は、塗装やクロス、木材、繊維類、家具調度品を汚染･変質させ、そのほとんどが有害菌です。さらには人の健康に対しても「真菌症」「アレルギー疾患」「中毒症状」の原因となることがあります。

カビの生育条件

カビが生育･繁殖するには、4つの条件が必要です。4つの条件のどれが欠けても生息できません。

条件	内容	対策
温　度	適温は15～30℃（28℃が最適温）20℃以上で繁殖が加速します。	対策困難
湿度（水分）	湿度は70～90％です。　80％以上で急激に繁殖します。	対策可能
栄　養	どんな物にでも生えます。	対策可能
酸素（空気）	カビにも酸素は必要です。	対策不可能

カビを防ぐ日常の心がけ

カビが住めない環境にしましょう

① 天気の良い日は、積極的に窓を開け、通気、換気を行い、風通しをよくして湿気を防ぐ。
② 結露が出たら、すぐに拭き取る。
③ こまめに掃除して、カビの栄養源となる汚れを取り除く。
④ エアコンフィルターを定期的に清掃して、カビがフィルターから室内に飛散するのを防ぐ。

カビ対策の手順

環境対策（結露環境の改善など）

普段の心がけ（換気･通風･掃除など）

薬剤処理（最後の手段）

薬 剤 の 種 類

「殺　菌」：菌を殺すだけ
「防カビ」：菌の成長を抑える。薬剤の効果のある期間のみ有効。

取り扱いは、説明書をよく読み、保護具を着用して、換気に注意しましょう。

カビが発生した場合

① すぐに拭き取らない。カビ菌が飛散します。
② カビ取り剤を使用し殺菌する。（少量ずつ）
③ 薬用アルコールで拭き取る。（少量ずつ）
④ 乾燥させる。
⑤ ②～④の繰り返し
⑥ 防カビ剤を塗布する。
　シミが残ることがありますので、取扱説明書をよく読んでご使用ください。

3 設備機器の使用上の注意

使用上の注意

ガス機器

器具の使用は、必ずメーカーの取扱説明書を読んでください。

●ガス給湯器の排気口は加熱されています。ヤケドの恐れがありますので、触れないようにしてください。
●給排気口は絶対にふさがないでください。不完全燃焼をおこします。
●ホース･取り付け状態をときどき点検してください。
ゴム管は、早めに交換してください。古くなると、ガスが漏れやすくなります。
●器具を使用しないときは、器具だけでなく、必ずガスの元栓も閉めてください。
ホースがはずれると、ガスが漏れて危険です。
●ガスのにおいがする場合は、ガスの元栓を閉めてください。
火を使用すると、爆発の危険があります。

熱いのでさわらないでください

ガス漏れ警報機

ブザーが鳴っているときの対応を覚えておきましょう。

●ブザーが鳴っているときは、ガスの元栓を閉めてください。
器具だけでなく、配管から漏れている場合があります。
●ブザーが鳴っているときは、排気のために窓をゆっくり開けてください。
火を使用すると、爆発の危険があります。
●ブザーが鳴っているときは、電気器具を操作しないでください。
スイッチの点滅も爆発の原因となります。

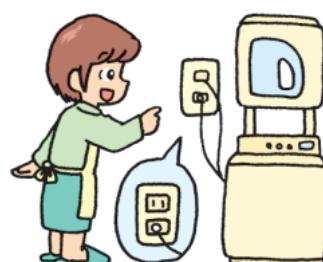
給水設備

止水栓の位置や止め方を事前にチェックしましょう。

●混合水栓の場合、必ず「水」から出すようにしてください。
「湯」から出すと、熱湯が出てヤケドの恐れがあります。
●設備機器の故障で漏水した場合は、止水栓を止めてください。
住戸内全ての給水を止めるためには、屋外の水道メーターの付近の止水栓を閉めてください。放置すると、下階へ漏水する恐れがあります。
また、流し台、洗面化粧台、トイレタンクには専用の止水栓があります。
●住戸内の蛇口を全て閉めた状態でも、水道メーターが動いているときは漏水の恐れがあります。
早急に管理会社にご相談ください。配管から漏れている場合があります。

電気機器

器具の使用は、必ずメーカーの取扱説明書を読んでください。

●電源ONの状態で機器の清掃をしないでください。感電の恐れがあります。
●アースの必要な器具は、必ず正しくアースをとってください。
万一漏電しても、感電事故を避けることができます。
●冷蔵庫などのコンセントを差したままの器具は、ほこりがたまらないように定期的にコンセント部分の清掃を行ってください。発火の原因になります。
●照明器具やコンセント、スイッチの近くで壁や天井に釘などを打ち込むと配線コードを傷つけ、ショートや感電する危険性がありますのでおやめください。

アースは確実に!!

使用上の注意

照明器具

●長時間点灯した電球は熱いのでさわらないでください。ヤケドの恐れがあります。
●濡れた手でランプの取り替えをしないでください。感電の恐れがあります。
●指定重量以上の重すぎる器具は使用しないでください。補強をしないと、落下します。

コンセント

●たこ足配線で使用しないでください。コンセントの損傷や火災の原因となります。
●プラグは、根元までしっかり差し込んでください。発火の原因となります。
●濡れた手でコンセントを操作しないでください。感電の恐れがあります。

プラグは、
根元まで差し込む

たこ足配線は、
危険です

コンセント

分電盤

漏電ブレーカーは、回路のどこかに漏電があると、直ちに電気をストップします。

●漏電ブレーカーは、月に1回程度の頻度で動作確認をしてください。動作しなければ、漏電による感電や火災を防ぐことができません。
●濡れた手でブレーカーに触れないでください。感電の恐れがあります。
●電気器具の使いすぎ、器具の不良が原因で遮断器が切れることがありますので、分電盤の電気系統をひとつひとつ「入」にして調査すると、漏電している電気系統と電気器具がわかります。
●分電盤のフタを開け放しにしないでください。
近くに照明器具がある場合には、熱で火災が発生する恐れがあります。

濡れた手でさわると危険です!!

分　電　盤

4 防犯・緊急時に対する備えと対応

備えと対応

防犯

ドアスコープやドアガード（用心鎖）を活用。戸締りは厳重に。

●在宅時でも、玄関は施錠してください。
●少しの間留守にする場合でも、施錠してください。
●外部から出入りできるサッシは、面格子の有無を問わず、外出時と就寝時は施錠してください。
●ドアスコープやドアガードを活用し、不注意にドアを開放しないでください。
●鍵は不用意な場所に置かないようにしましょう。

火災

火災に備えて

非常時に備えて小型消火器、消火剤を装備しましょう。

●放火を防ぐために、新聞・雑誌の束など燃えやすいものを廊下や玄関前などに出さないようにしましょう。
●タバコは安全な場所で吸い、確実に消えたことを確認する習慣をつけましょう。
●ストーブで洗濯物を乾かしたり、カーテンや布団など燃えやすい物の近くで使うのはやめましょう。
●日頃から2つ以上の避難経路を家族全員で確認しておきましょう。また、防災訓練などに積極的に参加しましょう。

●家庭用の小型消火器、消火剤をぜひ用意しておきましょう。また、使用方法を必ずマスターし、非常時に備えましょう。共用廊下などの通路に消火器が配置されている場合は、日頃から設置場所を確認しましょう。
●避難ハッチ付近に植木鉢など物を置かないようにしましょう。
●油火災を防止するため、油使用時、台所から離れないようにしましょう。
●たこ足配線は避け、コンセント回りのほこりの掃除を定期的に行ないましょう。

火災が発生したら

●鉄筋コンクリート造の建物は、延焼する恐れはまずありませんが、近くで火災が発生した場合は、バルコニーに干してある洗濯物などの可燃物を室内に入れて、窓や出入り口の扉を閉め、火や煙が室内に入らないようにしてください。
●自分の住戸から出火した場合は、火災警報器を押すとともに、消防署へ通報してください。
●あわてず冷静に！初期消火で小さな火は消すことができます。
・ガスの元栓を閉めて、危険のない範囲で初期消火に努めてください。
・出火の原因が油類ならば、布団などで火を覆って空気を遮ると消えます。
・電気器具や電線からの出火は、分電盤のブレーカーを切ってから水をかけてください。
・ガス器具からの出火は、ガスの元栓を閉めてから水をかけてください。
●初期消火が不可能と思ったときは、直ちに避難してください。
●避難時は特に煙に注意し、低い姿勢で煙を吸い込まないようにし、できるだけエレベーターの使用はやめましょう。

台風

風水害に備えて

大雨による浸水などに注意。対策は早めに。

●バルコニー床の排水口（ドレン）や、外回りのサッシ敷居（下枠）の水抜きが詰まらないように掃除してください。
●バルコニーにある物は、吹き飛ばされないように固定または移動しておいてください。
●強風雨時は引き違いサッシの周りなどから雨水が浸入することがあります。この場合は、サッシ敷居（下枠）部分に、雑巾などを詰め込んでください。

備えと対応

地震

地震に備えて

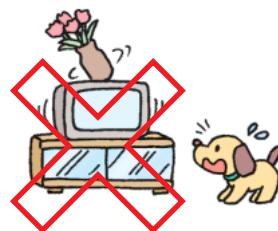
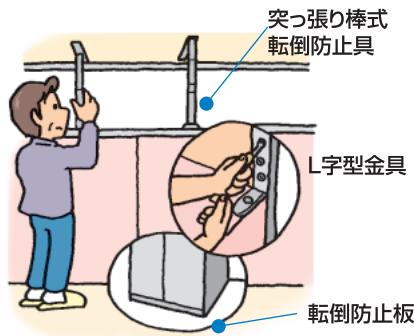
家具の転倒や置物の落下で怪我をしないような対策をしてください。

●家具が倒れると危険であることはもちろん、避難経路をふさぐこともあります。
家具の転倒防止策としては

家具の真下に敷く「家具転倒防止板」 強度のある壁や柱に固定する「L字型金具」 強固な天井から突っ張る「突っ張り棒式転倒防止具」

などがあります。
固定場所・家具の種類などによって固定方法を検討してください。

●窓や食器棚などのガラスに「飛散防止フィルム」を貼ると、ガラスや食器の飛散・破損を防ぐことができます。

●日頃から物の置き方などは、倒れたり落ちたりすることがないように、注意して地震に備えておきましょう。テレビに水がかかると危険です。特に、テレビの上に水槽や花瓶などを置かないようにしましょう。

テレビの上に
花瓶等を置かない!!

地震が発生したら

揺れを感じたら、落ち着いて火の始末

●鉄筋コンクリート造の建物といえども、大地震の場合はかなりの揺れを感じます。ただし亀裂が生じることはあっても、建物全体が倒壊する恐れはまずありません。あわてて外へ飛び出すと落ちてくる瓦などで危険です。

●地震を感じたら、落ち着いて、まずガスなどの火の始末をしてください。また、電気のスイッチを切ってください。

●エレベーターは使用しないで階段を使用してください。

●避難方法や避難場所を日頃から確認し、訓練しておいてください。

家庭内非常用品の参考例

停電に備えて

●懐中電灯・ロウソクなど

台風に備えて

●携帯ラジオ（電池を確認）・時計など

応急処置に備えて

●大工道具一式・補修用木材など

万一の場合に備えて

●保存食品・救急箱など